

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡パラの家(A棟)		
所在地	岐阜県 郡上市 八幡町 初音140-1		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	平成26年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2171000645-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護福祉士・ケアマネジャー・看護師の資格を取得した職員が多数働いており、質の高い介護が提供できている。月に外科・内科・心療内科の往診があり、医療面で不安なく過ごすことができています。地域との交流にも力を入れており、地域ボランティアの数も増えてきています。また、四季に合わせ地域の祭りやイベント(城下町花火・展示会等)・外出や外食の行事を取り入れ、楽しみを持って生活して頂けるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、医療法人の機能を最大に活かし、医療や健康面で、不安のない暮らしを支援している。看護師は、非常勤を含め、4名を雇用し、健康管理に万全を期している。職員は、半数以上が有資格者であり、さらに多くの職員が国家資格に挑戦し、研修会や受験費用は、法人が負担して、働く意欲を高めている。管理者・職員は、家族や地域社会との協力関係を大切に、利用者が住み慣れた地域の中で、喜びと誇りを持って生活ができるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(A棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中でゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。	理念は「住み慣れた地域の中で、自分で出来る喜びと誇りを持てる生活を」と掲げている。共用の場に大きく明示し、毎朝全員が確認をしている。利用者の意思を尊重し、その人らしい生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃や祭りへの参加、協力をを行い、地域の一員として交流を図っている。また、中学生の体験学習の受け入れや児童の訪問そして各種ボランティアの参加も頂いている。	自治会の一員として受け入れられ、地域の行事や清掃活動に参加をしている。また、地域の各種ボランティア団体や赤十字奉仕団が、定期的に訪れ、活発な交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター運営協議会に定期的に参加して、医師・薬剤師・市議会議員・民生委員・シニアクラブ等、各代表者と認知症の人への理解や支援について意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。尚25年度より郡上市の条例に基づき年3回の開催となった。	会議は、市の条例改正で、昨年度から、年に3回開催をしている。運営の実情を報告して、参加者から意見を聴くと共に、毎回、家族8名の参加があり、希望や意向を確認し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。また、地域包括運営委員会の委員として参加している。	市主催の地域包括運営委員会の一員として、定例会議に出席し、事業所の実情を伝えたり、地域の福祉課題を検討している。市の介護相談員が毎月訪れ、助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に出入りできるようになっている。	身体拘束をしないことを実践している。現在その対象となる事例はないが、安全上必要が生じた際は、家族から同意を得るための書式を整えている。できるだけ、拘束に至る前の予防に重点を置いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について研修に参加したりミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援や成年後見制度が必要なケースは過去に一例あったが現在はない。過去に研修には参加しているが経験が少なく支援できる体制が万全とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出来る限り家族にも参加して頂き、全体的な話し合いや個別の話し合いができるように心掛けている。要望等は職員ミーティングで話し合い反映させている。	家族の訪問時や運営推進会議へ出席した家族から、意見や要望を聴いている。また、年に1回のアンケートも実施をしている。家族からは、遠慮もあってか、率直な意見は得られていない。	家族アンケートの様式や項目の見直しと、毎月、家族へ送る手紙を活用し、より意思の疎通ができるように期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや新年会、忘年会など日頃からコミュニケーションを図ることにより、意見や要望を聞き出すように努めている。	法人グループでの運営会議と、ホーム内のケアを中心にした会議がある。また、親睦会では、個人的な相談にも応じている。職員の希望する休憩室の確保は、継続課題となっている。	働く環境整備の一環として、休憩室の確保に期待をしたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価システムを取り入れ昇給に反映させている。また、資格手当により資格習得に向け、向上心を持って働ける環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が研修案内を閲覧して、希望があれば受講できるようにしている。また、必要な研修は業務として受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接にて施設内の見学や本人と話をすることで、困っている事や不安や要望などに耳を傾けながら本人との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接で家族にも施設内の見学をしてもらい、家族の現在困っていること・不安・施設への要望など聞き、その希望に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接で本人や家族の希望・要望を聞き、ケアマネ・看護師・介護職員で話し合いをして、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にする者として、利用者と一緒に作業したり、利用者の話に耳を傾け、互いに関わる時間を大切にしながら安心して生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や様子を月一回のお便りで家族に報告している。本人からの希望や状態変化時には、電話連絡にて対応している。家族の無理の無い程度で面会や外出をお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が面会に来所された時は、本人の居室でゆっくり話ができるよう支援している。また、職員と一緒にドライブへ行ったり、家族をお願いをして美容室や喫茶へ外出などされている。	家族が来訪時、美容院や墓参り、帰宅などで連れ出している。また、希望者は、外泊もしている。職員と一緒に、買い物や見慣れた町並みへのドライブを継続をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係・性格・嗜好・特技などの把握に努め、より良い関係を保ち、互いに楽しく生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は次のサービスへの情報提供(電話 連絡、サマリー)を行なっている。また契約終了後も依頼があれば相談や支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の思いや意向を把握したり、困難な場合は、表情や動作から思いを汲み取り、家族からも情報収集し、一人ひとりの思いに寄り添うように努めている。	日々の言動や性格から、思いや意向を把握している。趣味の手芸や好きな作業をやってもらい、喜びと誇りを持って暮らせるように活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人の今までの暮らしや楽しみなどを本人や家族から聞いて情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で一人ひとりのできる力を見極め、常に職員間で話し合いを行っている。また、月1回のカンファレンスでさらに全体で話し合い、各自の残存能力の把握と職員間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員をつけ、本人の希望や家族の要望を聞いてカンファレンスで話し合い、本人に合ったケアプランづくりに努めている。	計画にあたり、本人・家族の要望を聴いている。また、担当者を中心にカンファレンスを繰り返し、身体機能を維持しながら、安全な生活ができるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・本人の言動・行動・ケア実践・結果・アドバイスなどを介護記録に記入することにより、職員間での情報共有やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態や家族の希望に応じその都度、職員間で話し合い対応に努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練を行ったり、各種ボランティア(遊び相手ボランティア等)や地域の行事に参加することで、本人が楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の受診状況を把握、本人や家族の希望を確認し主治医を決定している。また、月に4回、協力医院の往診があり、多職種で連携をとりながら支援している。	本人・家族の意向を確認し、かかりつけ医を法人の医師に変えている。総合病院への受診は、家族が行い、職員の看護師が投薬や症状を把握し、主治医とは、こまめに連絡をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師職員を2ユニット5人配置しており、健康管理や状態変化に対応している。また、夜間帯も利用者急変時等には連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、利用者の生活状況及び状態を文章にして提供している。また、病院のケースワーカーと施設ケアマネが情報交換し、スムーズに退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医に報告、相談し、本人や家族と話し合い方針を決定している。	重度化して、動けなくなったり食べられない場合を、生活の限界として、他の機関へ移行することを方針としている。段階的に、家族と医師、関係者で話し合い、安心して移行できるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に備え24時間対応できるようにしている。事故発生時にはヒヤリハット、事故報告内容を提出し対策を検討している。また急変時のマニュアルを作成し初期対応、AED講習など定期的に受け対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域住民の協力を得て、夜間火災や地震を想定した避難訓練を年2回施行している。訓練を通し利用者の現状態に応じた避難方法を確認している。災害時の備蓄は、母体と連携を取っており、多少の蓄えがある。	地域とは、災害時の協力体制ができている。避難訓練は、住民の参加を得て、避難誘導や夜間想定を重視し、年2回実施をしている。裏山は、市から急傾斜地崩壊危険区域の指定を受けている。	今年は、異常な集中豪雨が各地で多発しており、裏山の危険区域も来年から安全の為に施工が予定されているが、早期の工事促進に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けをするよう努めている。また、利用者が安心して生活が送れるよう受容・傾聴に努め、その人らしい生活が送れるよう支援している。	一人ひとりの人柄や個性を尊重し、誇りを損ねない言葉や態度で接している。そして、年長者として敬い、視線を下げて、話をよく聴き、安心できるように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取る中で、利用者の思いや希望を聞き出し、本人の思いや希望を尊重して自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活に対する思いや希望を聞き、一人ひとりのペースに合わせるよう努めている。また、集団生活の中でも出来る限り本人の意思を尊重し、希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみやおしゃれが自己決定出来るよう支援している。3ヶ月ごとに、美容師に来所してもらいカットしてもらっている。行きつけの美容室を希望される利用者は、家族に付き添ってもらい整髪に行かれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、食器洗いを利用者の残存能力を活用しながら職員と一緒にしている。昼食には、職員も利用者のテーブルと一緒に座り楽しく会話しながら食事をしている。また、週4回利用者の好みや旬の食材を取り入れたメニューを立て、食事を楽しんで頂けるよう支援している。	個々の家事経験を活かし、調理や準備、片付けなどを担っている。職員も一緒に同じものを食べ、楽しい雰囲気づくりをしている。献立には、旬の食材や好みを採り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスを考え管理栄養士や専門調理師が関わっている。また、食事摂取量や水分摂取量を把握し、変化があった場合は主治医や管理栄養士に報告・連絡・相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態や残存能力を把握したうえで、個々に適した口腔ケアや清潔保持ができるよう支援している。		

岐阜県 グループホーム郡上バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、一人ひとりの行動パターンや習慣を観察し、声掛け・見守り・介助により自立を支援している。また、夜間数名がPTイレを使用しており、失敗が少なく安心できるような支援を心がけている。	個々の排泄パターンやサインを察知し、トイレへ促している。夜間は、数名が部屋でのポータブルトイレ使用を好み、自立をしている。その人に合わせ、紙パンツ、布パンツとパッドにして、費用を削減している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩など運動を随時行っている。排便を促す食材を食事に取り入れ、水分補給も定期的に行っている。また、個別に医師の指示により服薬コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴をローテーションで行っている。利用者の体調を考慮したり、順番のこだわりや拒否される利用者にはタイミングを図ったり、清拭で清潔を保ってもらっている。入浴中は職員との会話も楽しんでいる。	隔日の入浴を、個々のペースに添って支援している。湯船に入るのが困難なときは、清拭を行い、それぞれのこだわりや配慮をし、無理強いをしないように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの寝具を持ってきてもらい、生活習慣を大切にもらったり、換気や室温に気を配り気持ちよく過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬のファイルを作成して、服薬している薬の目的や副作用など確認できるようにしている。内服時は名前と日時を確認し、一人ひとり手渡し再度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中から生活歴や経験を把握し、一人ひとりに合った役割や楽しみ・生きがい・気分転換が図れるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブを楽しんで頂いている。季節の行事として、春祭りや花火など家族の協力を得ながら行っている。また、本人の希望により、家族との喫茶店や外出などできるよう支援している。	周辺の散歩や近場のドライブへ、よく出かけている。季節の行事や花見へは、弁当を持って外出をし、また家族と協力して、買い物や喫茶店、美容院などへの外出を支援している。	

岐阜県 グループホーム郡上バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行っているが、本人の希望があれば、家族の了承の下お金を所持し、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されればいつでも電話を掛けていただけるよう支援している。また、自室に携帯電話を設置しているかともみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に製作した季節の作品を居間や居室廊下に飾っている。また、作品の材質・見た目も工夫している。居間に温度計を設置し快適に過ごして頂けるよう支援している。	建物は、天然木の造りで、ぬくもりがある。壁や廊下に、手づくりの折り紙作品や川柳、季節の花を飾っている。照明は、天井に反射方式で柔らかく、温度や湿度を、快適に設定し、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に椅子を置き、仲の良い利用者同士話をしながら、日光浴や気分転換を図り利用者のくつろぎの場となっています。居間にもソファがあり、歌を唄ったり、話をされて過ごされている。本棚を設置し、自由に見て頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込んでもらっている。家具の写真や作品を飾り、本人好みの居室作りが出来るよう支援している。安全面も考慮し、配置替えを本人と相談しながら行っている。	居室には、洗面台と扉の付いた押入れが備え付けである。筆筒などの家具類や見やすい時計、思い出の写真、カレンダーなどを飾っている。各部屋の表札も個性的で、居心地よい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで廊下や浴室トイレには手すりが設置されており、安全に移動できる構造となっている。また、トイレ・風呂場・居室を判りやすくするため、名札や絵等で表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000645		
法人名	医療法人社団 鼎会		
事業所名	グループホーム郡上八幡バラの家 (B棟)		
所在地	岐阜県 郡上市 八幡町 初音140-1		
自己評価作成日	平成26年7月20日	評価結果市町村受理日	平成26年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(B棟)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域との関係性を重視し、ここで暮らす一人ひとりが地域社会の一員として、住み慣れた地域の中でゆったり穏やかに過ごせるための支援を理念としている。管理者と職員はその理念を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃や祭りへの参加、協力をを行い、地域の一員として交流を図っている。また、中学生の体験学習の受け入れや児童の訪問そして各種ボランティアの参加も頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センター運営協議会に定期的に参加して、医師・薬剤師・市議会議員・民生委員・シニアクラブ等、各代表者と認知症の人への理解や支援について意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地域代表者、行政代表者のメンバーと災害時の対応や連絡、連携等話し合ったり家族の希望・要望を聞かせて頂き活かしていくための有意義な場となっている。尚25年度より郡上市の条例に基づき年3回の開催となった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に利用者の思いを直接聞いて頂き助言を頂いたり、地域包括支援センターからの事業所訪問で意見交換をさせて頂いている。また、地域包括運営委員会の委員として参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが身体拘束となる行為を理解し、身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠については、事務所に職員がいる時は20時の施錠としており、それまでは自由に出入りできるようになっている。		
7	※	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止について研修に参加したりミーティングで話し合う場を持ち、事業所内での虐待が見過ごされることがないように努めている。		

岐阜県 グループホーム郡上バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援や成年後見制度が必要なケースは過去に一例あったが現在はない。過去に研修には参加しているが経験が少なく支援できる体制が万全とは言えない。		
9	※	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはホームのケアに関する考え方や取り組みについて説明をしている。また、起こり得るリスクや重度化に対する対応・方針・医療連携体制を説明し、ホームの対応可能な範囲について同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出来る限り家族にも参加して頂き、全体的な話し合いや個別の話し合いができるように心掛けている。要望等は職員ミーティングで話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや新年会、忘年会など日頃からコミュニケーションを図ることにより、意見や要望を聞き出すように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価システムを取り入れ昇給に反映させている。また、資格手当により資格習得に向け、向上心を持って働ける環境、条件の整備に努めている。		
13	※	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自が研修案内を閲覧して、希望があれば受講できるようにしている。また、必要な研修は業務として受けてもらっている。		
14	※	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、他施設との交流を図ると共に情報交換も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接にて施設内の見学や本人と話をすることで、困っている事や不安や要望などに耳を傾けながら本人との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接で家族にも施設内の見学をしてもらい、家族の現在困っていること・不安・施設への要望など聞きその希望に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接で本人や家族の希望・要望を聞き、ケアマネ・看護師・介護職員で話し合いをして、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしを共にする者として、利用者と一緒に作業したり、利用者の話に耳を傾け、互いに関わる時間を大切に、安心して共に生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や様子を月一回のお便りで家族に報告。本人からの希望や状態変化時には電話連絡し対応している。家族の無理の無い程度で面会や外出をお願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が面会に来所された時は、本人の居室でゆっくり話ができるように支援している。また、職員と一緒にドライブへ行ったり、家族にお願いをして美容室や喫茶へ外出などされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や他の利用者との相性など把握に努め、より良い関係を保ち利用者同士が関わり合い支え合い楽しく生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は次のサービスへの情報提供(電話・連絡、サマリー)を行なっている。また契約終了後も依頼があれば相談や支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の思いや意向の把握に努め、困難な人には、本人の思いを表情や動作から汲み取ったり、家族からも情報を得ながら本人の思いに添うよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人のこれまでの暮らしや楽しみなどを本人や家族から聞いて情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で一人ひとりの有する力を見極め、常に職員間で情報共有している。また、月1回のカンファレンスでさらに話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員をつけ、本人の希望や家族の要望を聞いてカンファレンスで話し合い、本人に合ったケアプランづくりに努めている。		
27	※	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子・本人の言動・行動・ケア実践・結果・アドバイスなどを介護記録に記入することにより、職員間での情報共有やケアプランの見直しに活かせるように努めている。		
28	※	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人の希望にそえるよう、職員間で話し合い、ニーズに柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホーム郡上バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力による避難訓練・各種ボランティア(遊び相手ボランティア等)等地域住民の方達の参加も頂き支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に利用者の受診状況を把握、本人や家族の希望を確認し主治医を決定している。また、主治医による定期的な往診なども行い支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師職員を2ユニット5人配置して夜間帯、利用者急変時等には連絡し指示を受けたり、健康管理や状態変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者の生活状況、及び状態を文章にして提供している。また、病院のケースワーカーと施設が情報交換し退院許可が出たらバラでの生活がスムーズに送れるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、主治医に報告、相談し、本人や家族と話し合い方針を決定している。		
34	※	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に備え24時間対応出連絡できるよう、全員に指示し医療連携体制を取って事故発生時にはヒヤリハット、事故報告内容を提出し対策を検討している。また、急変時のマニュアルを作成し初期対応、AED講習など定期的に受け対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域住民の協力を得て、夜間火災や地震を想定した避難訓練を年2回施行している。訓練を通し利用者の現状態に応じた避難方法を確認している。災害時の備蓄は、母体と連携を取っており、多少の蓄えがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けをするよう努めている。また、利用者が安心して生活が送れるよう受容、傾聴に努め、その人らしい生活ができるよう支援している。		
37	※	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と、コミュニケーションを取る中で利用者の思いや希望を聞き出し自己決定出来るよう支援している。		
38	※	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活に対する思いや希望を聞き、一人ひとりのペースに合わせるよう支援に努めている。また集団生活の中でも出来る限り本人の意思を尊重し、希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。3ヶ月ごとに、美容師に来所してもらいカットしてもらっている。行きつけの美容室を希望される利用者は、家族に付き添ってもらい整髪に行かれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、食器洗いを利用者の残存能力を活用しながら職員と一緒にしている。昼食には、職員も利用者のテーブルと一緒に座り楽しく会話しながら食事をしている。また、週4回利用者の好みや希望に合わせた献立を立て、出来る限り食べ残しが無いよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスを考え管理栄養士や専門調理師が関わっている。また、病気により食事制限がある場合は、出来る範囲で個別に対応している。常に食事摂取量や水分摂取量を把握し、変化があった場合は主治医や管理栄養士に報告・連絡・相談をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態や残存能力を把握したうえで、個々に適した口腔ケアや清潔保持ができるよう支援している。		

岐阜県 グループホーム郡上バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は、個々のできる力を見極め、声掛け・見守り・一部介助を行っている。また、個々の様子を観察することで、排泄パターンを把握し失敗の少ない支援に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分補給で、利用者の状態に合わせてオリゴ糖を使用したり、体操や散歩などを随時行っている。また、希望される利用者にはヤクルトを飲んでもらったり、医師の指示により服薬コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴をローテーションで行っている。利用者の体調を考慮したり、順番のこだわりや拒否される利用者にはタイミングを図り柔軟に対応している。入浴中は職員との会話も楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じて休息したり、換気や室温に気を配り気持ちよく過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬のファイルを作成して、服薬している薬の目的や副作用など確認できるようにしている。内服時は名前と日時を確認し、一人ひとり手渡しし再度確認している。		
48	※	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の生活の中から生活歴や経験を把握し、一人ひとりに合った役割や楽しみ・生きがい・気分転換が図れるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴、買物、喫茶店、希望があれば自宅まで職員が車で送迎したり、外出・行事・定期的な外出など家族の協力を得て行っている。花見や花火大会等季節毎のイベントに参加し、気分転換も図っている。		

岐阜県 グループホーム郡上バラの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で自分で金銭を管理している利用者もあり、新聞代等の支払いも本人がされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話があり、本人が希望されればいつでも電話を掛けていただけるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と一緒に製作した季節の作品を居間や居室廊下に飾っている。また、掲示板に行事の写真を貼り楽しんでもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前に椅子を置き、仲の良い利用者同士話をしながら、日光浴や気分転換を図り利用者のくつろぎの場となっています。居間にもソファがあり、歌を唄ったり、話をされて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や季節の塗り絵を飾り、部屋が明るくなるようにしている。また、家具を持ち込まれ、自宅に近い空間作りをされ過ごしている利用者もみえる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーで廊下や浴室トイレには手すりが設置されており、安全に移動できる構造となっている。また、トイレ・風呂場・居室を判りやすくするため、名札や絵等で表示している。		